

- 近畿6県97人の門推集う□1
- 阿弥陀さまと私□2
- 新・祖蹟点描□3
- 青色青光□4
- 連区門推実践運動研修会□6
- 組活動推進事業報告会□8
- 僧侶・寺族研修会□9
- 響流十方□10
- つれもて聴こら□12



『紀伊国名所図会』に描かれた江戸時代後期の鷺森御坊

2018年(平成30年)
4月1日
第116号

発行：「御同朋の社会をめざす運動」和歌山教区委員会 〒640-8053 和歌山市鷺森1番地 本願寺鷺森別院内 電話(073)422-4677 URL <http://saginomori.or.jp/>

近畿6県97人の門徒推進員集う

鷺森別院で2日間の研修

第3連区門徒推進員実践運動研修会が2月24、25日の2日間、「御同朋の社会をめざして」のご親教「念仏者の生き方」に学ぶくをテーマに、鷺森別院で開催された。

近畿6教区(滋賀・京都・奈良・大阪・和歌山・兵庫)から97人の門徒推進員が集まり、宗門の実践運動の目的を改めて学ぶとともに、普段の活動内容を伝え合った。



講師の問題提起で普段の活動を振り返る参加者

開会式では、中岡順忍教務所長と谷口庄亮さん(和歌山教区門徒推進員連絡協議会会長)があいさつ。



谷口庄亮会長

中岡教務所長は、「門徒推進員として

の活動を確し合い、喜びや悩みや問題点を共有していただく大切な研修会です。2日間有意義に過ごせるよう、精いっぱいのおもてなしをさせていただきます。谷口会長は、「蓮如さんの縁深い鷺森別院にようこそおいでいただき、ありがとうございます。念仏者として、自分たちはどう生かされたらよいかということ、この2日間で皆さんと語り合いながら勉強したいと思えます」と、研修会の意図を説明した。

【門徒推進員】一般社会や日常生活に根差した門徒の立場から、宗門の進める「御同朋の社会を目指す運動」(実践運動)を推進する方。組の門徒推進員養成連続研修会(連研、全12回)を修了した上で、西本願寺で門徒推進員中央教修(3泊4日)を受講。所属教区の教務所長が委嘱し、門徒推進員名簿に登録される。和歌山教区の門徒推進員は、現在47人。

⑥⑦面に詳報

すっかり名物 孫市まつり



3月25日、第14回孫市まつりが鷺森別院とその周辺を会場に、盛大に開催された。すっかり名物となった催しは、参加者が戦国武将などに扮した武者行列でスタート。行列は、和歌山城を午前10時30分に出発し、和歌山市駅を経て、11時45分に鷺森別院に到着。本堂の前に並び、大きな勝ちどきの声を上げた。

阿弥陀さま

ハウツー仏事

と私

花まつり

4月8日は仏教各宗派のお寺で、お釈迦さまのお誕生日をお祝いする「花まつり」が行われます。

⑱ 〆むかしもむかしの春八日、ひびきわたったひと舌は、天にも地にもわれひとりの(仏教讃歌『花祭の行進曲』)

と歌いながら、花御堂を乗せた白象を引いて行進し、会場寺院で紙芝居を見たり灌仏をし、最後にあめやキャラメルをもらった筆者の小学生時代の地元の仏教会主催の花まつりのことが懐かしく思い出されます。「灌仏」とは、お釈迦さまがこの世に誕生されたとき、これをお祝いして甘露

(天の神々の飲み物)の雨が降ったとの故事にちなみ、花々で飾った「花御堂」の真ん中に立っておられるお釈迦さまの誕生仏に甘茶を灌ぐこと。このことから花まつりのことを「灌仏会」ともいいます。

4月8日、お釈迦さまの誕生日お祝い

花御堂を乗せた白象が日高別院の周りを行進



お釈迦さまは、今から約2500年前、現在のインド北東部とネパールとの国境近くにあるカピラヴァストゥ(カピラ城)に居を構えていた釈迦族の王子として誕生されました。

花御堂・白象は仏典の故事から

ヤー妃は、カピラ城郊外のルンビニー園に出掛けました。花々が美しく咲き乱れる園を散策中、花を取ろうと木の枝に右手を差し伸べたとき、その右脇から七色の光が放たれると、空から2万人もの天女が降り立ち、マヤー妃を取り囲んで静かに手を合わせました。やがて光のなかに一人の王子が現れ、それがお釈迦さまのご誕生だったといわれています。お釈迦さまは誕生されて

に生まれてきたのである」とのお言葉であります。ところで、なぜ七歩あるかしたのでしょうか。それは、地獄(他人を責め続ける者と自己を省みることのない者の世界)、餓鬼(欲望に自己を見失った世界)、畜生(自己を恥じることのない世界)、修羅(怒りと慢心の世界)、人間(苦悩のなかにも真実を求めずにはおれない者の住む世界)、天上(安楽のなかで自己を見失った世界)という六道(六つの迷いの世界)を一歩乗り超えた世界、すなわちさとりの世界があることを教えられたからです。

て誕生されました。

仏典に説かれる故事によれば、母のマヤー妃は、ある夢を見てお釈迦さまを懐妊されたといわれています。それは、鼻で白い蓮の花を捧げ持った真っ白な象がひと声高く鳴いて姿を現し、妃の周りを右回りに3度回り、妃の右脇にするりと入ったという夢でした。

すぐ、七歩歩いて右手は天を指し、左手は地を指して「天上天下唯我独尊、三界皆苦我当安之(天上天下にただ我独り尊し、三界は皆苦なり、我まさに之を安んずべし)」と叫ばれたといわれています。

これは「この世で最も尊い者とは、苦しみ悩む人々に真の安らぎを与える者だ。私はそという者になるため



きれいに飾られた花御堂でお釈迦さまに甘茶を注ぐ

やがて臨月を迎えたマ

これは「この世で最も尊い者とは、苦しみ悩む人々に真の安らぎを与える者だ。私はそという者になるため

鷲森別院では、3月25日の第14回孫市まつりの際、例年と同じく本堂入り口に花御堂を設置し、自由に甘茶を注いでいただきました。日高別院では、5月13日午後1時から、恒例の降誕会・花まつり・湯川忌をお勤めいたします(写真は2015年の同法要から)

(松本教智 和歌山教区組長 会長、海南組ア賢寺住職)

新

祖蹟点描

18 比叡山 青龍寺㊦

青龍寺には、報恩蔵といふ経蔵(書庫)があった。『法然上人行状絵図』によれば、法然聖人(法然房源空聖人 1133~1212)はその経蔵にこもり、一切経(経典の全集)を拝読されること五遍に及ばれたという。

それは、何とかして生まれ変わり死に変わりする迷いの境涯を離れたいという切実なる思いによるものだった。しかし拝読すればするほど、お釈迦さまの教えを実践できるわが身ではないことを知らされ、年月

ばかりが過ぎていった。

ここにおいて大きな導きとなったのは、極楽往生についての先人の要文を集めた源信和尚の『往生要集』であり、『往生要集』がとりわけ指南としている中国の善導大師(613~681)の『観経疏』だった。

『観経疏』とは、仏説観無量寿経の注釈である。観無量寿経は、古代インド・マガダ国の都王舎城で、王子阿闍世が父王頻婆娑羅

王を幽閉し、母后韋提希夫人を殺そうとした「王舎城の悲劇」を縁として説かれた。お釈迦さまは、王と同じく宮殿深く幽閉された韋提希夫人の求めに応じ、この世の苦悩を離れ浄土に生まれるための行法を教えられる。このとき、重い罪を犯した者も南無阿弥陀仏と称えることによつてすくわれると説かれるのである。善導大師はこれを注釈さ

「かの仏の願に順ずるがゆるなり」

れ、煩惱にとらわれた凡夫が、その煩惱に迷う心のまま、お念仏することによつて浄土に往生する道を勧めておられたのであった。

法然聖人は、最後の望みを託すような思いで『観経疏』を読まれた。そして読まれること3度、その一節が目飛び込んだ。

「一心にもつぱら弥陀の名号を念じて、行住坐臥に時節の久近を問はず念々に捨てざるは、これを正定の

業と名づく。かの仏の願に順ずるがゆるなり(原漢文)」「(註釈版聖典七祖篇 463頁)

一心に専ら阿弥陀仏の名乗りである南無阿弥陀仏を称え、いかなるときも時間の長短を問わず称えて一瞬も捨てないこと、これを浄土に往生する正しき行いとなす。なぜなら、この行いこそ阿弥陀仏の願いに順うものだからである――。



青龍寺の報恩蔵

法然聖人、専修念仏に帰入

今までは、自分自身が浄土往生を求める思いからお念仏を称えていた。しかし、その称えているお念仏とは、阿弥陀仏が私を必ず浄土に生まれさせるといふ願いに発するものであった。つまり、私がお念仏を称えているのは、私を浄土に生まれさせるという阿弥陀仏の願いが、現に私に至り届いているすがたなのであった。その理に気付かされた

比叡山 青龍寺

場所 滋賀県大津市坂本本町4-2-20
電話 077(578)0001(代)

交通 京都駅でJR湖西線に乗り換え13分、「比叡山坂本」駅下車、同駅前から江若バス・ケーブル坂本線で7分、「ケーブル坂本」駅下車、坂本ケーブルに乗り換え11分、「ケーブル延暦寺」駅下車、徒歩1時間。

ゆるなり(順彼仏願故)――き、法然聖人のなかでお念仏という一句の持つ深遠な意味に、法然聖人は初めて目を開かれたのであった。仏教では全人格を揺るがすような宗教体験を「回心」という。『観経疏』の一節によつて回心を遂げられた法然聖人は、1175年(承安5)春、43歳にしてお念仏以外の行を捨て去り、阿弥陀仏の願いに順ずる道すなわち、ひたすらお念仏申すという「専修念仏」の道に帰入されたのである。

これこそ日本仏教史上、阿弥陀仏の大慈悲のお心が真に開顕された瞬間だった。

【参考文献】大橋俊雄校注『法然上人絵伝』(岩波文庫)、伊藤唯真監修、山本博士『図解雑学・法然』(ナツメ社)、藤田宏達『人類の知的遺産18 善導』(講談社) (本紙編集部)

「聴き方連続セミナー」終了

ビハーラ和歌山が主催、昨年12月から5回の研修

「傾聴」の基本的姿勢を学ぼうと、ビハーラ和歌山(津本京子代表)が主催し、昨年12月19日から5回、最終回を迎えた。

傾聴の基本的姿勢学ぶ



輪になり竹本先生とセミナーを振り返る

このセミナーは、ビハーラ和歌山が毎月行っている



竹本了悟先生

高齢者施設での傾聴活動の中で、「私は本当に相手の話を聴けているのだろうか?」という会員の疑問が発端となり企画。

傾聴とは、人の話をただ聞くのではなく、注意深く、丁寧に耳を傾けること。自分の聞きたいことを聞くのではなく、相手が話したいこと、伝えたいことを、受容的・共感的な態度で「聴く」こと。

同団体の傾聴活動にかぎらず、「家族や友人、大切な人の話をもっと上手に聴けたらいいのに」など、日常の中での聴き方の基本的な姿勢から学ぼうと、NP

青色青光

平和への願いを後世に

御坊組門信徒研修会に65人が参加

〇法人京都自死・自殺相談センター代表の竹本了悟先生とそのスタッフを招いて開催した。

セミナーでは、竹本師の講義のあと、2人1組となり、一人が話す役、もう一人が聞き役となり、傾聴を実践する時間が設けられた。参加者の1人は「学んだことをすぐに試すことができ、分かりやすい」と感想。

最終回を終え、ある参加者は「傾聴は生涯のテーマだと思ふ。ぜひともこのセミナーの第2弾も開催してほしい」と語った。

御坊組では2月24日、日高別院を会場に組の恒例行事である門信徒研修会を開催。同組内から65人の僧侶・門信徒らが参加した。

今年度は「石の鐘の願い〜寺と金属類回収令〜」と題し、湯

得度習礼講習会開催

教区内から4人が受講

和歌山教区では2月13日から14日の2日間、得度習礼講習会を実施した。



僧侶の心得を学ぶ

2015年4月1日以降に得度習礼を受ける場合、事前にこの講習会を本山または各教区で受講すること

が義務化されている。和歌山教区では毎年1回開催しているが、今年は教区内から4人が参加。中岡順忍教務所長による「宗制の大意」の講義、教区内特別法務員の指導による衣体の被着法、本堂内陣の荘厳説明、正信念仏偈のお勤めや御文章拝読の練習、内陣出勤の実習などが行われた。

参加者らは、慣れない衣体の着付けや、初めて取り組む勅式作法に悪戦苦闘しながらも全員が修了。得度に向けて気持ちを新たにする講習会となった。



映像に引き込まれる参加者たち

川逸紀さん(御坊組組長・三宝寺住職)が、太平洋戦争時、全国の寺院から強制

的に供出させられた梵鐘や仏具、またその代替品の映像をプロジェクトで映しながら講義。

戦争を経験したことがない人が日本国内の大半を占め、戦争が遠いものとなりつつあるなかで、参加者はスクリーンに映し出される映像に新鮮な驚きを感じつつ、戦争の理不尽さを改めて感じ、いのちの尊厳を考える研修となった。

青色青光

中央教修の受講奨励

連研履修者研修会に14人が参加

和歌山教区は2月3日、

鷺森別院で連研履修者研修会を開催した。各組の門徒推進員養成連続研修会(連研)を修了した14人が参加。

この研修会は、連研修了者に対し、門徒推進員養成に込められた願いを伝え、門徒推進員中央教修の受講を奨励するため開催してい



書院で話し合い法座

るもの。

2年ぶりとなった今回は「念仏者の生き方を考える」門徒推進員とは」というテーマで、中川大城さん(連研中央講師・奈良教区葛城北組無量寺)が講師を務めた。

中川師は問題提起として「あなたにとって門徒推進員とはどんなイメージですか?どんな存在ですか?」「どのようなお寺(門徒・僧侶)の姿が、本来の(あるべき)姿でしょうか?」などのようなお寺(門徒・僧侶)になりたいのですか?」の2点を問い掛け。

その後、2班に分かれて話し合い法座。門徒推進員については、「どんな活動をしていいのかわからない」「門徒推進員は資格で

はなく、自覚である」、お寺のあり方については、「それぞれのお寺の事情もあります、それに応じた活動をしていけばよいのでは」「住職の兼任や兼業が原因で、活動が十分にできていない寺院もあるが、私たちがバックアップしていきたい」など、活発な意見交換を行った。

まとめで中川師が「火は消えてしまえば、再び起すのに苦労しますが、種火があれば大きな火ともなり

ます。私たち一人ひとりの活動も熱意を持って続けていけば、それがいつか大きな力となります。お互いに日々の活動を大切にしましょう」と話した。

また、中央教修体験発表が行われ、第244回中央教修を修了した松井伸子さん(和歌山北組教願寺)と、第250回を修了した尾崎好成さん(和歌山組法林寺)が、本山での3泊4日の教修で特に感銘を受けた体験などを話した。

鷺森別院でお寺のイロハ学ぶ

第2回若い女性の集い

教区仏教婦人会では2月10日、「第2回若い女性の集い」を鷺森別院で開催。

仏婦活動の参加経験の有無を問わず45歳までの女性が対象となったこの研修には、教区内から21人が参加。

午前11時から開会式に引き続き、花田和樹賛事(和歌山教区教務所)が「お参りのイロハ」と題して、お念珠や経本の取り扱い方や



参加者にキーワードを提示

同宗連公開講座

鷺森別院本堂に90人

同和問題にとりくむ和歌山県宗教教団連絡協議会(同宗連)では3月7日、鷺森別院で公開講座を開催。



友永健三さんの講義

90人が参加した。

友永健三さん(部落解放・人権研究所名誉理事、和歌山人権研究所顧問)が「水

平社宣言について考える」と題して講義。1922年(大正11年)3月3日、京都岡崎公会堂で行われた全国水平社創立大会で採択された「水平社宣言」の文言を、プロジェクターを使いながら丁寧に解説。

その後、熊谷直実(くまがやのりみ)の子孫である熊谷かおりさんが歌を交え特別公演。

お焼香の作法などを分かりやすく解説。

午後からは「お寺に関する素朴な疑問?」と題してグループトークを行った。

中岡順忍和歌山教区教務所長が「世間の行事とお寺の行事の違い」、「お寺の住職・坊主さんについて」、「家庭での仏事について」

の3つのキーワードを提示。これを受け、参加者は4班に分かれて話し合い。「地域ごとに法事などの仕方に特色があるということ

を知った」「仏事に携わることは大変だけど、有り難いことだと感じた」など、女性同士だからできる気さくな会話から新たな発見をしている様子だった。

中岡所長はまとめの話で、「今日この場所での出会いは、さまざまな人の意見や考え方に触れ、また悩みを共有する体験だったのではないだろうか。そのことは、皆さんが新たな視点を

心豊かに生きられる社会の実現を

第3連区門徒推進員 実践運動研修会

2日間にわたった研修会は、初日の開会式のもと、季平博昭師(連研中央講師、備後教区御調束組光光寺)が問題提起。これを受けた「話し合い法座」では6人から8人ずつ13班に分かれ、一人ひとりが活動の現況を報告し、喜び・成果・課題などを共有。班ごとに出された意見を発表し、その後はまとめの講義。

2日目は、京都・奈良・大阪の3教区の活動事例報告、全体協議会、まとめの講義。閉会式では、次回担当の兵庫教区が「来年もぜひご参加」と呼び掛けた。

問題提起

門徒推進員養成のための連続研修会(連研)が始まったのは、1978年(昭和53)です。同じ年から中央教修も始まり、門徒推進員になられた方は、のべ1万人を超えました。

この連区別の実践運動研修会は、門徒推進員として取り組まれている活動を披歴していただき、活動するなかでの思いや課題を共有していただく貴重な場です。

活動と課題語り合う



13班に分かれ、普段の活動を報告し合った「話し合い法座」

班別発表

1班 ○中央教修を受けてから、家庭で報恩講をお勤めするようになった。
 ○お仏壇に向かう後ろ姿で、子や孫に伝わるものがあるのでは。
 ○寺報(寺の新聞)を出したり、お寺の掲示板に絵手紙を張り出している。
 2班 ○中央教修での決意表明を毎年新しい手帳に書き替え、年1回振り返る。

宗門の最も基本的な法規である「宗制」の前文には「本宗門は、その教えによつて、本願名号を聞信し念仏する人々の同朋教団であり、あらゆる人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝え、もつて自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献するものである」と示されています。

これをより分かりやすくされたのが、2008年に

支え合い共に歩む仲間として



季平博昭師

出された「浄土真宗の教章の「宗門」という部分で、次のように記されています。「この宗門は、親鸞聖人の教えを仰ぎ、念仏を申す人々の集う同朋教団であり、人々に阿弥陀如来の智慧と慈悲を伝える教団である。それによつて、自他ともに心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」

「同朋教団」とは、非常に重い言葉です。かつて仏教は、貴族や厳しい修行ができるのかぎられた人のものでした。法然聖人、親鸞聖人は、流罪に遭われ命の危険にさらされながらも、すべての人が救われていく道でなければ仏教ではないと説かれました。そして、お互いが支え合いながらお浄土へ向けて歩いて行くという、今日に至る同朋教団、御同朋の社会を目指す教団のあり方をお示しく

「仏法を依りどころとして生きていくことで、私たちは他者の喜びを自らの喜びとし、他者の苦しみを自らの苦しみとするなど、少しでも仏さまのお心にかなう生き方を目指し、精一杯努力させていただく人間になるのです」と示されました。

煩惱具足の凡夫で自己中心的な私が、阿弥陀さまのみに支えられ、他者の心をわが心としていけるような私に育てられていく。

凡夫だからしょうがないではなく、凡夫だからこそ、凡夫と知らされたからこそ、みんなで支え合って生きていきたいと思います。

活動の基本だと思います。班別話し合い法座のなかで、それぞれの具体的な活動を振り返っていただきながら、成果や課題の確認をしていただけたらと思います。

○今の若い親は「頂きます」の言葉の意味も知らない。その意味を教えるのも私たちの仕事ではないか。
 ○病気の親を看取ったとき、息子が「当たり前のことか当たり前前でない」と知らされた」と言ってくれ、ご縁のおかげと感激した。
 3班 ○お寺に親子で来てもらえるよう、ゲームをするなど工夫している。
 ○毎月、壁新聞を作っている。
 ○組の連研の出席者が少ないので、最後の回に本山参拝をすると、たくさん出席してくれた。
 4班 ○紙芝居を手作りして報恩講やキッズサンガで上演し、すでに10年経つ。
 ○報恩講や降誕会の前に子供たちと一緒にお寺の清掃をしようと発案している。
 ○携帯のアドレスや番号に法名を入れている。
 ○寺の新聞を各戸に配布しているが、門徒推進員の事業も載せるようになった。
 5班 ○縁の下の力持ちとして、お寺を盛り立てていきたい。
 ○毎月勉強会をお寺でしている。お法の話は難しいが、話を聴くと少しずつ身に着いていく。浄土真宗は

「次世代にみ教えを」「縁の下の力持ちに」「葬儀の簡略化心配」

8班 ○地域のひと協力し子供食堂を開設している。
 ○東北へ有田みかんをトラックいっぱい送っている。
 ○一番よかったのは、法友と出会えたこと。
 9班 ○三世代同居しており、家族での「和」を考

え、家庭法座を始めた。
 ○住職と共に支え合う門徒でありたい。
 ○組内15カ寺を巡り、報恩講や永代経に仲間と一緒に参加する。聴聞できることがうれしい。
 10班 ○連研を修了された人が、なかなか中央教修へ行ってくれない。
 ○年忌法要や葬儀が簡略化してきており、仏さまとの縁をどうつないでいくか、先行きが心配。
 ○若者のお寺離れが言われるが、本当はよりどころのない不安を感じているのではないか。
 11班 ○若い人には、家のお寺ではなく、個人のためのお寺と伝えていかなければいけないのでは。
 ○組の連研をしているが、12回のうち2回は門徒推進員が全部仕切って開催する。
 ○息子が家を新築するとき、仏壇はどこに置いたらいいかと聞いてきてうれしく思った。
 12班 ○子供や孫と一緒に沖繩のひめゆりの塔に参加した。黙とうの合図と同時に、周りが驚くほど、全員揃って大きな声でお念仏してくれた。これで念仏相続できたかなと思った。
 13班 ○命の尊さをしっかりと子供たちに伝えていかなければ、次の念仏者は育てられない。



話し合い法座で出された意見を班ごとに発表

お念仏喜ぶ仲間が集うお寺へ

鷺森別院岡崎支坊(和歌山市森小手穂555)で2月17日、和歌山教区門徒総代会(山本勇会長)が主催する「組活動推進事業報告会」が開催された。

この報告会は、各組の門徒総代会の取り組みが他組の参考になればと、持ち回りで組内の活動を紹介するもの。今年度は和歌山東組門徒総代会(中村裕会長)が担当し、組内3カ寺の門徒総代さんが、各組から参加した50人の総代の代表者を前に、組の活動の一端などを報告した。

岡崎支坊で和歌山東組の総代が日頃の活動伝える

組活動推進事業報告会



発表に熱心に聴き入る各組の総代さん方

和歌山東組の区域内にある岡崎支坊が会場となったことから、はじめに得津正司さん(信楽寺)が「本願寺鷺森別院岡崎支坊の紹介」を行った。

「創立は延宝6年(1678)、本願寺第14世寂如上人が紀州・泉南・南河内の門徒の方々が宗派の違う高野山へ納骨するのを気の毒に思われ、若山豊屋町(現在の和歌山市新魚町)にあった天台宗光明寺の廃趾を移して別院とし、納骨所と定めたことに始まりま



得津正司さん

す」と、岡崎支坊の沿革や建物の形態、支坊に伝わる法宝物などを詳しく紹介。参加者は、次々とスクリーンに映し出される本堂・

山門・無量寿堂(納骨堂)、欄間彫刻・天井絵・襖絵などの写真に見入った。得津さんは最後に「現在、岡崎支坊の近くに和歌山南インターの整備が進められていますので、インターが開通した際にはぜひご参拝を」と、参加者に呼びかけた。



坂口 功さん

続いて、坂口功さん(西教寺)が「前門さまのキッズサンガへのメッセージ」を紹介しながらキッズサンガの願いを説明したあと、「和歌山東組キッズサンガ」の取り組みを報告。

昨年12月、自身が門徒総代を務めるお寺で開催された準備や運営を手伝った第2回キッズサンガ「お寺でおもちつき仏さまのお供えを手作りしよう」について、当日の様子を写真を交えて説明した。

「子どもたちは家に帰るとすぐにお仏壇にお餅をお供えして、キッズサンガで練習したおつとめを家族みんなで行いました」「お寺での作法やお経の意味を知ることができて、とても良かったです」などの保護者の感想を紹介。「これから

も組内行事に積極的に協力して、門徒総代としての役割を果たしたい」と、今後の意気込みを語った。

最後に、川端久代さん(妙祐寺)が「和歌山東組の紹介」として、同組の区域や寺院17カ寺の所在地、各寺院の日常の活動を紹介。



川端久代さん

今後の組活動の目標は、キッズサンガをさらに展開するなど、子ども・若者のご縁づくりを行うこと。よって、①お寺に集う方々に「またお寺にお参りしよう」という気持ちを持って

もらうこと、②生活の中で「手を合わせる」ことが自然に身に付くように、家庭における宗教的習慣の伝承を働き掛けていくこと、と説明。

川端さんは、「お寺にお念仏を喜ぶ仲間が集って阿弥陀如来のお心を聞き、それによって自他共に心豊かに生きることのできる社会を目指したい。そのために門徒総代として努力していきたい」と、2人の発表を踏まえて抱負を述べた。

最後に、出席した中願順忍教務所長が報告会について感想。過疎化や人口減少、家庭環境の変化などで次世代へお念仏が伝わりにくくなっている状況のなかで、

「門徒総代の皆さまには、住職や坊主とお互いの考えや思いを伝え合うことのできる関係を築き、その良き相談役となっていたいただきたい。そして、お寺の特色を生かしながら、一人でも多くの方がお寺に集うように努めていただきたい」

と、門徒総代の役割を確認して閉会した。

「念仏者の生き方」に学ぶ

和歌山教区僧侶・寺族研修会

鷺森別院で1月28日、「ご親教『念仏者の生き方』について学ぶ」をテーマに、「御同朋の社会をめざす運動」(実践運動)和歌山教区委員会が主催する「僧侶・寺族研修会」が開かれた。教区内から44人が参加。一昨年10月1日の伝灯奉告法要初日に述べられた専如門主のご親教(法話)について、教学研究と同朋研修の2部構成で学びを深めた。

第1部の教学研究では、「救いのめざめ」と題して森田眞円師(本願寺派勸学・京都女子大学教授)が講義。親鸞聖人が比叡山の常行三昧堂で自力の修行をされていた時代、清浄なまごりの世界に近づこうと努力すればするほどむしろ離れていくことに苦悩されたこと、法然聖人のもとを訪れ、他力の救いへの宗教的回心にめざめられことを穏やかな口調で語った。

さらに、南無阿弥陀仏の名号について、法然聖人の『選択本願念仏集』から「名号はこれ万徳の帰するところなり」(註釈版聖典七祖篇1207ページ)と、親鸞聖人の『顕浄土真実教行証文類』(教行信証)から「帰命は本願招喚の勅命な

藤尾まさよさん



「沈黙から目覚めへ」―私の中の差別―

森田眞円師



「救いのめざめ」

り」(註釈版聖典170ページ)を引用。

名号は阿弥陀さまの救いのはたらきそのものであり、「必ず救う、われにまかせよ」とのよび声であること、名号の「名」とは、無明煩惱の暗闇の中で自分自身の姿すら見えない私への慈愛に満ちた声であり、「号」は本来「號」と書いて、虎

のように大声でよび続けてくださると話した。

仏法を聴聞することで、私には仏になるために役に立つ真実のものはどこを探してもないと気付かされ、南無阿弥陀仏の名号となつて常に私と共にある阿弥陀さまの救いにおまかせすること、これが「救いのめざめ」であると締めくくった。

第2部の同朋研修では、「沈黙から目覚めへ―私のの中の差別―」と題し、藤尾まさよさん(非営利団体崇仁実行委員会代表)が講演。藤尾さんは、まず被差別部落である京都市崇仁地域出身者であることから受けた差別経験について話した。それは、中学生のとき、近隣地域の友達が発した崇仁地域をさげすむ言葉を受け入れてしまったことに始まり、家庭環境から大学進学を断念せざるを得なかったこと、就職先での上司からの差別、そこから逃げるために転職し離れた地域に引越したことで、さらには結婚差別に及んだ。

これらの経験によって、現実から目をそむけ、本当に大切なものが見えなくなってしまうといった自分だったが、崇仁地域の中学生が発した「僕らがどんなに頑張ってもアカン。どうせ社会は認めてくれへん!」という言葉を聞いたときの衝撃が転機になったと語った。

その後は、皆山中学校のPTA会長として、差別解放のために人権学習を開始。現在は、万華鏡をコミュニケーションツールとして使った体験型人権学習(万華鏡コミュニケーション)、崇仁地域の情報発信マガジン「崇仁くひと・まち・れきし」の刊行、また災害支援など自身の活動を紹介。町内会長も務め、自転車で地域を回って人びとに声を掛ける毎日で、目指す人間像は「最強の近所のおばちゃん」とのこと。

「どのような理由があっても差別はしてはいけない。私の考えや行動は、自分も自分の周りも幸せにしているのかと問い掛けながら、すべての人の幸せを願えるような活動を続けていきたい」と笑顔で語った。

藤尾まさよさんの取り組みは、昨年5月に「この町が好きだから―京都・崇仁地区―」と題してNHK(Eテレ)の『ハートネットTV』で特集され、現在は動画サイト・テイリー・モーションで視聴できる。

響流十方

4~6月の催し

本山

- 4月13~14日 恵信尼公750回忌法要
- 4月15日 立教開宗記念法要
- 4月17~18日 大谷本願総追悼法要
- 5月15日 夏御文章御開軸式
- 5月19日 誕生会(日野誕生院)
- 5月20~21日 宗祖降誕会
- 6月1~2日 広如忌(角坊)
- 6月7日 住職補任研修
- 6月8日 住職補任式
- 6月5~8日 大谷本願納骨・永代経法要
- 6月12~14日 第23代宗主勝如上人17回忌法要
- 6月19日 住職・開教使退任式

和歌山教区

- 4月13日 勤式講習会(鷺森別院)
- 4月19日 仏教壮年会連盟理事会(鷺森別院)
- 4月25日 布教団連続法座①(鷺森別院)、ピハハラ和歌山総会(鷺森別院)
- 4月27日 少年連盟委員会(鷺森別院)
- 5月9日 少年連盟総会・研修会(鷺森別院)
- 5月11日 勤式講習会(鷺森別院)
- 5月13日 仏教壮年会連盟つどい(鷺森別院)
- 5月14日 寺族女性会つどい(鷺森別院)
- 5月15日 門徒総代会つどい(鷺森別院)
- 5月16日 仏教婦人会連盟つどい(鷺森別院)
- 5月24日 教区布教団役員会(鷺森別院)
- 5月30日 布教団総会・研修会(鷺森別院)
- 6月2日 和歌山教区仏教壮年会連盟結成40周年記念大会(鷺森別院)
- 6月7日 布教団連続法座②(鷺森別院)
- 6月8日 勤式講習会(鷺森別院)
- 6月未定 寺族女性会研修旅行(北陸方面)

教区内各組

- 和歌山組**
 - 4月7日 寺院子弟の集い『寺っ子花まつり』(善行寺)
 - 4月未定 寺族婦人会「お花見会」(未定)
 - 4月未定 仏教婦人会タナ活動(鷺森別院)
 - 4月23日 門徒総代会・仏教壮年会連盟合同総会、実践運動「門信徒協議会」(鷺森別院)
 - 5月12日 第7期門徒推進員養成連続研修会⑦、組内会(鷺森別院)
 - 5月未定 仏教婦人会タナ活動(鷺森別院)
 - 5月未定 仏教婦人会連盟総会(鷺森別院)
 - 6月未定 寺族女性会例会(未定)
 - 6月未定 仏教婦人会タナ活動(鷺森別院)
- 和歌山東組**
 - 4月未定 組内会(未定)
 - 5月未定 組内懇親会(未定)
- 和歌山西組**
 - 4月1日 組内会(正圓寺)
 - 4月11日 組寺族婦人会例会(長楽寺)
 - 5月13日 第17期門徒推進員養成連続研修会⑦(正圓寺)
- 和歌山北組**
 - 4月14日 第1回組内会(慶圓寺)
 - 4月30日 第12期連研第12回スタップ会議(慶圓寺)
 - 5月中旬 仏教婦人会総会(未定)
 - 5月26日 第12期連研修了式(慶圓寺)
 - 6月16日 門徒総代会総会(慶圓寺)
 - 6月初旬 寺族女性会総会(慶圓寺)
 - 6月下旬 第2回組内会(慶圓寺)
- 加茂組**
 - 4月21日 仏教壮年会総会(青蓮寺)
 - 4月30日 組会、組巡回(浄満寺)
 - 6月12日 坊守会(願称寺)
 - 6月24日 仏教婦人会総会(教徳寺)
- 海南組**
 - 4月1日 仏教婦人会総会・研修会(慶證寺)
- 有賀組**
 - 4月15日 仏教婦人会連盟総会・研修会(西方寺)
 - 5月13日 仏教壮年会連盟総会・研修会(照圓寺)
 - 5月22日 組会、組巡回、懇親会(大光寺)
- 伊那組**
 - 5月8日 伊那組仏婦連盟総会(玉川寺)
 - 6月未定 組内会(かつらぎ町・極楽寺)
 - 6月未定 門徒総代会総会(未定)
- 海草組**
 - 6月9日 組会(報徳寺)
 - 6月15日 門徒総代会委員会(報徳寺)
- 日高組**
 - 4月14日 門徒総代会総会(蓮専寺)
 - 4月29日 仏教婦人会連盟物故者追悼法要・総会(長覚寺)
 - 6月1日 第1回ひかり編集委員会(信行寺)
 - 6月16日 第1回日高組内会(即生寺)
- 御坊組**
 - 4月7日 組会、組巡回(日高別院)
 - 5月27日 仏教婦人会総会(日高別院)
 - 5月未定 仏教壮年会総会(日高別院)
 - 5月未定 総代会総会(日高別院)
- 有田北組**
 - 4月8日 第1回協議員会(浄應寺)
 - 4月21日 組会、組巡回(浄念寺)
 - 5月23日 仏教婦人会連盟1日研修旅行(奈良)
 - 5月未定 仏教壮年会総会・研修会(未定)
 - 6月未定 門徒総代会総会・研修会(浄念寺)
- 有田南組**
 - 4月15日 仏教婦人会総会・研修会(福蔵寺)、仏教壮年会総会・研修会(興善寺)
 - 5月未定 組会(称念寺)
 - 6月未定 組内会(称念寺)
- 紀南組**
 - 4月14日 組会、組巡回(勝専寺)
- 6月未定** 総代会総会・研修会(福蔵寺)
- 4月21日** 仏教壮年会役員会(了賢寺)
- 4月28日** 「御同朋の社会をめざす運動」海南組委員会(了賢寺)
- 5月26日** 仏教壮年会総会・研修会(西法寺)
- 6月9日** 組会、組巡回(了賢寺)
- 5月19日** 第3期門徒推進員養成連続研修会⑩(浄國寺)
- 4月21日** 組会、組巡回(浄念寺)
- 4月8日** 第1回協議員会(浄應寺)

二尊会

鷺森別院 春の恒例法要

どなたさまもぜひご参拝ください

5月13日から16日までの4日間、鷺森別院では恒例の「二尊会」をお勤めします。毎座午後1時30分からお勤め、引き続き午後3時30分まで中川清昭師(筑紫野市山口・願應寺)の法話を聴聞します。

この法要期間中は、仏教婦人会連盟、仏教壮年会連盟、門徒総代会



紀州門徒のよりどころ親鸞聖人と蓮如上人を連座で描いた「二尊像」

- 各団体参拝奨励日
- 5月13日 仏教壮年会連盟
- 5月14日 寺族女性会
- 5月15日 門徒総代会
- 5月16日 仏教婦人会連盟

会、寺族女性会の総会や研修が開催され、教区内各地から多くの僧侶・寺族・門信徒の皆さまが参集し、にぎやかに勤められます。

法要期間中、内陣右脇壇に奉懸される「二尊像」は、鷺森別院の開基である了賢が、第8代蓮如上人から賜ったもので、紀州門徒の心よりどころとなり、現在にまで大切に伝えられてきた法物です。

有賀組門徒総代会が別院常例法座に参拝

有賀組総代会では2月16日、平畑栄治さん(有賀組安楽寺門徒総代)が20年間務められた鷺森別院の世話人を退任されるに際し、同組門徒総代など29人で、別院の常例法座に参拝した。

多くの参加者にとって、別院常例法座の参拝は初めてのことで、安德剛典師の法話を聴聞し、世話人の仕事について知るなど、貴重な経験となった。

(安德師の法話は12面に掲載)

得度

2月

嶋 章裕(和歌山組曹光寺)

3月

中岡俊晃(海南組願成寺)

津本芳城(御坊組天性寺)

教師

1月

長尾真紀(加茂組浄満寺)

敬吊

岩本 翠(有田北組西明寺前坊守) 12月15日

釘貫純子(和歌山組西光寺前坊守) 12月24日

島本泰雄(和歌山西組覺圓寺任職) 2月21日

刀祢禮子(和歌山組圓光寺前坊守) 3月22日

- 鷺森別院の催し
- 総永代経
- 6月17日、午後1時30分からお勤め。布教使は三宮享信師(大津市真野・正源寺)。
- 常例法座
- 4月15、田中諦康師(東近江市山路・稱名寺)、16日、永原智行師(日高郡由良町阿戸・教専寺)。6月15、16日、三上明祥師(大津市本堅田・本福寺)。毎座、午後1時30分からお勤め、引き続き3時30分まで法話を聴聞する。
- (本願寺鷺森別院 和歌山市鷺森1番地 ☎073-42214677)

川忌法要

引つ張り町内を行進する。

総永代経

5月13日、午後1時から菅原吉人副輪番による法話を聴聞し、御坊組内僧侶と園児らが、らいはいのうたをお勤め。その後、御坊幼稚園卒園児(小学1年生)のマーチングドリルを先頭に御坊幼稚園園児らが稚児行列。象に乗った花御堂を

5月20日、午後1時30分から正信念仏偈(草譜)をお勤め、引き続き、午後3時まで田中諦康師(東近江市山路・稱名寺)の法話を聴聞する。

降誕会・花まつり・湯

日高別院の催し

常例法座

4月20日、午後1時30分

から正信念仏偈(草譜)をお勤め、引き続き、午後3時まで田中諦康師(東近江市山路・稱名寺)の法話を聴聞する。

降誕会・花まつり・湯

宗祖降誕会

鷺森別院では5月20日、宗祖親鸞聖人のご誕生をお祝いする「宗祖降誕会」をお勤めいたします。

午前11時から初参式(赤ちゃんやお子さんの初参り)を行い、午後1時30分から法要をお勤めします。その後には三浦明利さん(吉野郡大淀町・光明寺)の法話コンサートが開催されます。



昨年の初参式の様子

つれもて 聴こら

「如来の作願をたづぬれば
苦悩の有情をすてずして
回向を首としたまひて
大悲心をば成就せり」
(註釈版聖典606頁)

と、宗祖親鸞聖人は『正
像末和讃』に阿弥陀さまの
お心を詠われました。

安徳剛典

阿弥陀さまは、自己中心
的に物事を考え、煩惱に
よって苦しみ悲しむ私たち
を何としてでも仏に成らせ

めに何から何まで阿弥陀さ
まの方で用意して、それを
私たちに施し与え、救いと
誓われたのです。

それが成就したのが「南
無阿弥陀仏」のお念仏です。
阿弥陀さまはお念仏となっ
て私たちに届いてくださり、
常にはたらいてくださって
いるのです。親鸞聖人は、
口から出てくださるお念仏
を心から喜ばれました。

親鸞聖人がお念仏に出遇
われる前、比叡山で20年も
の間、修行に励まれました。

しかし、その修行では成
果を得られませんでした。
仏に成るための修行の中で
かえって自分の心中に深く
根付いている自己中心的な
ものの見方に気付かれ、悩
まれたのです。この自己中
心的なもの見方は、私た
ちに深く根付き、なかなか
離れられるものではありません。

ので、最寄駅からタクシー
に乗ってお寺へ向かいまし
た。タクシーの中で運転手
さんに「運転手さん、今日
は天気が悪いですね」と話
し掛けました。すると運転
手さんは「何言ってるん
ですか、今日はええ天気です
よ」と応えられました。私
は不思議に思い、「なぜで
すか？ けっこうな雨が



全てお見通しの仏さま

るために、ご本願を起さ
れました。そして、この私
を必ず仏に成らしめんがた

その修行とは自己中心的な
ものの見方から離れ、煩惱
を断じるための修行でした。

あるお寺のご法座のご縁
を頂いたときの話です。そ
の日は雨が降っていました

降ってますよ？」と返し
ました。すると運転手さんは
「あのね、雨が降ったほう
がお客さんがよく乗って
くれるんですよ」と教えてく
れました。なるほど、タク
シーの運転手さんが見てい

る世界は、雨降りはいい天
気であるという世界なのだ
と知りました。

後日、タクシーに乗った
とき、その日も雨がザー
ザーと降っていましたので、
運転手さんに少し自信あり
げに大きな声で「今日はい
い天気ですね！」と話し掛
けました。するとその運転
手さんは「何を仰っている
んですか、今日の
天気は悪いです
よ」と応えられま
した。私は「えっ、
この間、乗車した
タクシーの運転手
さんは、雨はいい
天気だと教えてく
れましたよ？」と
返しました。する
と運転手さんは
「今日は日曜日で
す。休みの日は、
雨が降ると外出を控えられ
る方が多くなるんです」と
教えてくれました。

自分の姿に気付く

雨が降るのを見て、良い
天気だと思ったり、悪い天
気だと思っているのは、全
て自分自身の都合で判断し

ているのです。
私たちは、自分で作り上
げた世界の中で、自分の都
合で良いことや悪いことを
分け、追い求めたり、時に
は腹を立てたりして生きて
いるのではないでしょう
か。楽しみにしていた行事の
日に雨が降ると、なぜ雨が
降るんだと腹を立てたか
と思えば、水不足にでもなれ
ば、久しぶりの雨に喜ん
だりもします。

阿弥陀さまは何もかもお
見通ししてお念仏をご用意
くださいました。なかなか離
れられない自己中心的な心
も全てお見通しであるから
こそ、お念仏ひとつで救
取る仏と成ってくださった
のです。その阿弥陀さまの
ご苦労と慈悲のお心を聴か
せていただき、自分自身の
恥ずかしいありさまに少し
でも気付かせていただき、
仏さまにお育てを賜りなが
ら、お念仏と共に人生を歩
んでまいりましょう。
(大阪市西淀川区花川・
養善寺) 2月15日の鷲森
別院常例法座の法話から